



独立行政法人国立病院機構 東徳島医療センター

〒779-0193 徳島県板野郡板野町大寺字大向北1-1

TEL 088-672-1171 FAX 088-672-3809 URL <https://higashitokushima.hosp.go.jp/> e-mail 515-KANRIKA@mail.hosp.go.jp

やさしい笑顔と よりそう医療



小便を発酵させる？



外科 齋藤 勢也

日本人には、馴染みの深い味噌・醤油・納豆・日本酒などは、生活には欠かせない食品でこれは、日本人しか真似のできない発酵技術である。それは微生物の働きを応用して「発酵」という技術を確立しています。

現在発酵食品の効果が認められて、健康志向の人々には、非常に愛されています。以前に東京農業大学名誉教授の小泉武夫先生の驚きの発酵文化と言う文章を読んで驚嘆しました。

昔は、爆薬も発酵によって作られていたと言う内容です。年貢の代わりに加賀藩に越中（富山県）の世界遺産で有名な五箇山地方で伝承されていた奇跡の発酵らしいです。まず家の炉周辺の床下に二間（3.6m）四方に掘鉢状の穴を二つ掘り、その中に稗穀を敷き詰めその上に水分を少なめに含んだ良質の土（腐植土などを含んだ肥沃なもの）と蚕糞（カイコの糞）および鶏糞を混ぜ合わせたものを堆積する。更にその上に蕎麦殻、ヨモギの葉や茎、麻の葉を干した蒸したものを敷き詰め、更に土と蚕糞・鶏糞を混ぜ合わせたものを堆積する。こうしてこれらのものを交互に積み重ねて、最後に一番上から人間の小便を大量にかけ、その上に土をかける。この二つの穴の中間に炉があっ

てその熱が伝わって暖かくなる。こうしてそのまま長い間発酵させて、5～6年後にこれを掘りだす。この発酵の終了したものを塩硝土となり、更に水をかけたり灰汁をかけたりして煮詰めて灰汁煮煙硝となる。これらを精製すると精度の高い塩硝となる。この原理は蚕糞・鶏糞・人尿に含まれている尿素（CO（NH₂）₂）が土壌の硝酸菌を中心とした微生物の作用を受けて脱炭酸されてアンモニア（NH₃）→更に酸化されて一酸化窒素（NO）→水が追加され硝酸（HNO₃）となる。最終過程で草花の灰汁からカリウム（K）が硝酸と結合して硝酸カリウム（KNO₃）となるのである。高校の化学反応式のごとく計算された高度のプロセスである。これをどの様にして今から400年以上前の塩硝発酵という技術まで到達したのかは知る由もありません。家の炉のそばにこんなものを？吃驚仰天です。そのほかにも、酒は世界中で愛されている飲み物でコロナ禍ではステイホームになりなかなか飲み会もできませんが、日本酒も同様にアスペルギルス菌を日本人が飼いつづけて酒作りに使用しています。

次回はその話を投稿したいと思います。皆さんもこれを読んで火薬を作りますか？

新たに増えた特定看護師

東2病棟 西川 雅俊

私は、令和3年6月から12月までの7か月間四国こどもとおとなの医療センターで呼吸器関連の3区分6行為の特定行為に関する研修を受講してきました。6行為とは、経口用気管チューブ又は経鼻用気管チューブの位置調整、侵襲的陽圧換気の設定変更、非侵襲的陽圧換気の設定変更、人工呼吸管理がなされている者に対する鎮静薬の投与量の調整、人工呼吸器からの離脱、気管カニューレの交換があります。

私は、現在重症心身障害児者病棟に勤務しています。そこでは主に気管カニューレ交換を令和4年4月から徐々に見守りのもと実施していくことになっています。重心病棟で勤務する強みを活かし気管カニューレ交換が、患者さんの療養生活の妨げにならないように気管カニューレ交換の時期を検討していきたいと思っています。研修先で得たたくさんの知識や技術を振り返りながら、自施設での実施に向けて丁寧に患者さんの病態の理解

をしている最中であります。これからは医師や診療看護師、先輩の特定看護師などに指導していただきながら成長していきたいと思っています。研修で学んだことを活かし、病棟スタッフとも連携をとり安心・安全に特定行為の実施ができるよう努めていきますので今後ともよろしく願いいたします。



くすの木新聞に思いを馳せて

企画課 烏野 敬介

春は別れと出会いの季節ですね。かくいう私も、東徳島医療センターに配属されて5年がたち、この4月より、県外の病院へと異動することとなりました。5年間くすの木新聞に携わってきたのに、ひとつも寄稿していないのも心残りなので、思い切って書くことにしました。つたない文章ではありますが、温かく読んでいただけたら幸いです。

くすの木新聞の編集委員をしていて一番嬉しかったことは、くすの木新聞を読んで手紙をくださった方が居たことです。手紙をくださった方は、新聞に掲載した満開の花を見て、「当時自分たちで植えたこと、それが今でも存在し、春の訪れを告げていることがとても嬉しい」とつぶっていました。その手紙を読んだときに、くすの木新聞の編集委員をしていてよかったなと思いました。その時は文章を書く自信がなく、お返事ができませんでしたが、今は返事ができなかったことを後悔しております。4年越しにはなりますが、当時お手紙をいただいたことがとても嬉しく、編集の励みとなりました。この場を借りてお礼申し上げます。また、職員の方の旅をしたときの話や趣味の話、薬や検査、療育のイベントや栄養の献立等病院で行ったイベントやためになる話を読むことがとても楽しかったです。

編集委員に携われたこと、本当に嬉しく思います。貴重な体験をさせていただきありがとうございました。

さて、湿っぽい話はここで終わりにし、最近あった私の中のイベントを紹介させていただきます。

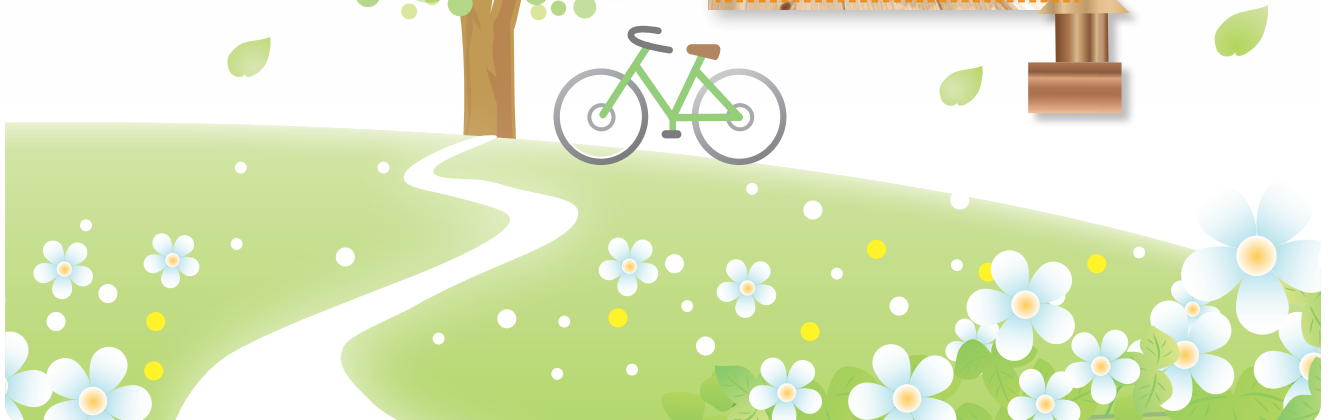
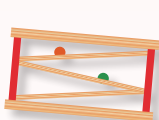
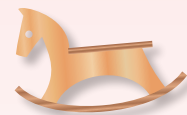
2021年10月に徳島木のおもちゃ美術館がオープンしたことを知っていますか？ニュースや新聞で取り上げられていたので知らない方はほとんどいないのではないかと思います。私はこの3月に初めて行きましたが、もっと早く遊びに来ればよかったと思うくらい時間を忘れて遊びました。

中には木のおもちゃだけではなく、世界のおもちゃや日本の伝統工芸、徳島の浄瑠璃人形などがあり、大人も子どもも楽しめる施設になっていました。

私の娘もお昼ご飯を食べずにひたすらおもちゃで遊んでいました。「お腹空いたから帰るよ」と言っても聞かず、「まだ遊ぶ！」と言わんばかりにおもちゃと向き合っていました。

そんな楽しいところや、利便性のある板野町を離れることは寂しいですが、この5年間で学んだこと、成長したことを胸に、新天地でも患者さんのため、病院職員のために一生懸命に働きたいと思えます。

また皆さんとどこかで会えることを楽しみにしながら、この文章の締めとさせていただきます。





ゆめ水族園 in 東徳島医療センター

令和4年1月某日。東徳島医療センターにゆめ水族園がやってきました。

高性能なプロジェクターとスピーカーを積んだ「ファンタスカー」が病室や待合室をまわり、美しい水の中の映像と幻想的な音楽で、患者さん（職員も）に癒しの時間を作り出しました。

コロナ禍で外出する機会が減っている中、またなかなか見ることができない水中の世界に包み込まれ、患者さんみなさんリラックス!! もちろん（しつこいようですが……）職員も!!

患者さんと職員が同じ空間・刺激を共有して、とても素敵な時間を過ごすことができました。

いつも同じような空間・時間が多い病院ですが、少しでも病院での時間が楽しく素敵な時間になるようこれからもいろいろ企画していければと思っています。ぜひみなさんも、東徳島医療センターで何か変わったことをしてそうだったら、お立ち寄りくださ〜い!! と言える日を願っています。

最後になりますが、今回、ゆめ水族園の機会を提供していただきました（株）セイコーエプソン様どうもありがとうございました。また次回もよろしくお願いいたします!!!

（療育指導室／佐々木智也）

